

Part 1

こうすれば、 わかる・使える 「学校で習う a と the」

筆者の長女が中学校に入学し、英語を習い始めたころに、

「お父さん、英語って日本語とずいぶん違うよね。
日本語では『本』という言葉で、そのままあてはめて、
文を作ることができるけれども、英語のbookは、そ
のままでは使うことができないものね」

というふうな感想を言っていました。なるほど、その通り
です。

「私は□をもっている」

と、□の部分に「本」を入れれば、そのまま通じます。

「私は本をもっている」

しかし、英語の場合には、そうはいきません。

I have □.

□の部分にbookをあてはめても、

I have book. (×)

というふうに、間違った文になってしまいます。
この文でbookは、a bookとするか、booksとしなけれ
ばいけません。(the bookとなる場合もありますね)

bookに何も付けずに使うのは、文法的に間違った文なの
ですが、英語を教わるときに、英語国では子供たちは「裸」
という言い方で注意をされるそうです。
冠詞の使い方が不適切だと、

「そのbookは裸ですよ。服を着せてやりなさい」

なんて、先生に直されます。
英語を母語とする人たちも、
子供の頃には、すんなりとa
とtheの使い方を受け入れて
いないようです。aとかthe
というのは不思議な記号です。

